

生きさせろ！ 命と生活を守るために憲法はある

週刊金曜日

5/8 2020

5/1 合併号
1279号

毎週金曜日発売
定価600円

編集委員

雨宮処凛・宇都宮健児・想田和弘・田中優子・崔善愛・中島岳志・本多勝一

マスクをしても
ものを言おう

緊急事態を
人権制限の理由にさせない

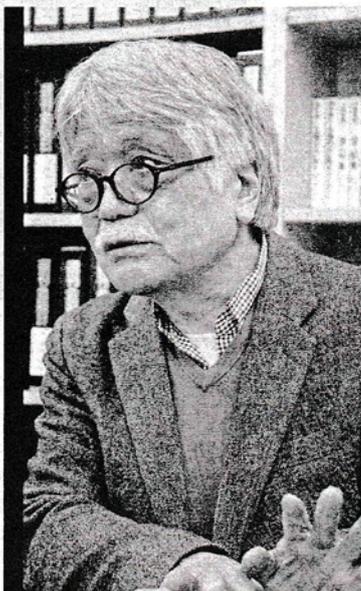


Copyright © 2020 Shueisha Inc. All rights reserved. 発行所：〒100-0001 東京都千代田区有楽町1-3-1 週刊金曜日編集部

『続・全共闘白書』 450人を 超える回答を

50余年前、社会の諸制度に異議申し立て運動を起こした全共闘世代も、「後期高齢者」を目前にしている。そうしたなか、続・全共闘白書編纂実行委員会が、大学・高校の全共闘・学園闘争経験者にアンケートを実施。寄せられた450人を超える回答を一冊の本にまとめた。昨年情況出版から刊行された『続・全共闘白書』には、獄中の重信房子、北朝鮮に住む「よど号」当事者らからの回答も含まれる。刊行を機に、東大全共闘世代で白書編纂実行委員会事務局の前田和男氏にジャーナリストの近藤伸郎氏が話を聞いた。近藤氏は1968年から40年後の2008年東大入学で前田氏の後輩にあたる。

(編集部)



前田和男

ままだ かずお／1965年東大入学、68年当時は『東大駒場新聞』編集長。『続・全共闘白書』編纂実行委員会事務局。

う時点でバイアスが掛かっていると思います。

前田 そのとおりでしょうね。アンケートを前向きにとらえた人もいれば、そうではない人もいます。なかには「年収や家族構成など個人情報に関わる細かいことまで訊いてくる、お前たちは公安か？」という拒否反応から回答せずに送り返してくる人もいた。また、回答は手元にとどめるが往時を思い出すチャンスを与えてくれてあり

近藤伸郎（以下、近藤） 450人の回答というのは、かなり大きなサンプル数だと思いますが、回答率はどれくらいでしょうか。
前田和男（以下、前田） 今回の『続・全共闘白書』は25年前の1995年にまとめた『全共闘白書』の続編で、そのときの名簿をベースに4000近くにアンケート用紙を送る。そのうちの戻りが450という数字をどうみるかですが、質問が75もあり、しかも回答の多

くが〇×ではなく記述方式であることを考えると、歩留まりが悪いとは言えない。事務局としては、それなりの回答率だと評価してい

ます。

近藤 一方で、回答しなかった「サイレント・マジヨリテイ」の存在も気になります。「回答した」とい

がとう、という返信もありました。だから、回答にはバイアスは掛かっているけれど、そのぶん熱がむんむんこもっているものがほとんどです。

近藤 どうして、全共闘世代はその時代に「熱く」なれたんでしょか。大学生という時期は、子どもから大人になる過程の思春期にあたります。一方で、当時は高度成長と大衆社会化により、社会が大きく変化していく激動の時代でもあったわけで、一人の個人が語る「あの時代の体験」は、どこまでが属人的で、どこまでが時代の要請によるものだったのか、簡単には分からないところがありますよね。

前田 多くの回答からもうかがえますが、当事者自身にも、あの時代が何だったのかは、まだにつかみきれないのではないかと。だからこそ、自ら問い直してみることの意味があるんだと思いますね。前回のアンケートの時点ではまだ働きざかりで多くの人が中間管理職だった。そこから25年経って、言いたいことが言える歳になった。ちなみにラストの問の「最後にこれだけは言いたい」がすごい分量で、ここだけ書いてきた人もいる。おかげで分厚くなりましたが、物語性のある歴史的レポートになりました。

獄中の重信房子氏、「よど号」当事者からも

近藤 一つ偉そうな提言をすれば、このアンケートは大学順ではなく、年代順にすべきだったと想っています。同じ68年でも、当時の学部の1年生なのか、もしくは院生なのかで、経験は大きく違ってくると思うんです。

前田 なるほど。分析方法としてはそのほうが見えやすいかもしれませんが。でも、元全共闘のビヘイビアが25年前とどこが同じでどこがどう違っているのかを、時系列的に比較対照してみたかったんで

す。そこで同じ見せ方にしました。

まあ、それはエディトリアル上の問題ですから、生データはあるので、近藤さんの言うように順番を入れかえるなりクロスをかけるなりすると、全共闘をめぐる風景がより立体的に見えてくるでしょうね。今後それに協力するのによぶさかではありません。

近藤 今、小杉亮子さんと松井隆志さん（注1）など、若手の研究者が「あの頃はなんだったのか」ということに盛んに取り組んでい

らっしゃいますけれど、そういう層にも活用できるようなデータベースを作っていくことが大事だと思っと思っています。

前田 たしかに社会運動が研究対象になってきたというのは、面白いことだと思いますね。すでに米国なんかでは、日本研究として日本の左翼運動、とくに新左翼運動の研究がジャンルとして確立しています。パトリシア・スタインホフさんが連合赤軍を研究されて（注2）、若い研究者も出てきています。小杉さんや松井さんら日本の若手が本書をネタに新しい研究の地平を拓いてもらえれば、うれしいかぎりです。

元全共闘は「生乾きの干物」!?

近藤 あと、重要なのは「全共闘世代の本音は語られたのか」です。ある程度は語られていたとしても、この期におよんで匿名の方が多いいのは気になります。「全共闘世代の遺言」というには、はっきり言って腰が引けています。上野千鶴子さんが講演会でおっしゃっていましたが、あの時代はまだまだ生々しくて、「干物が乾ききっていない」のかもしれない。

前田 匿名と回答してきた人の中に、たまたま知り合いがいたので、「なんだ」と問うと「あまり深



近藤伸郎

こんどうのぶろう/ジャーナリスト。2008年東大法学部入学。在学当時の08年、立花隆ゼミにてシンポジウム「今語られる東大、学生、全共闘」主催者の一人に、『情況』などに記事掲載。

続・全共闘白書
450人を
超える回答

アンケート結果から

『続・全共闘白書』に掲載された75問のアンケート結果から
主なものを紹介する。

回答総数467。16通を除く451通の回答を掲載。有効解析対象は446。

【性別】男性：400人(89.7%) / 女性：46人(10.3%)

【出身地】(上位10人以上) 東京都：100人 / 神奈川県・大阪府：31人
北海道：28人 / 福岡県：17人 / 新潟県：14人 / 千葉県・兵庫県：12人
愛知県・香川県・福島県：10人

【主たる活動の場と回答者数】(10位まで) ①東京大：56人 / ②日本大：34人
③明治大：33人 / ④法政大：19人 / ⑤中央大、早稲田大：18人
⑥京都大：13人 / ⑦立命館大：12人 / ⑧東工大：11人
⑨同志社大：10人 / ⑩九州大、慶応大：8人

【現在の職業】何らかの仕事をしている：268人
無職・年金生活：158人 / 不明・記述なし：20人

出典 / 『続・全共闘白書』

回答者の主なプロフィール

く考えてなかった」と言って「本名」に切り替えた人がいました。本名か匿名かは、あまり意識していません。だから匿名で面白いことを書いている人がかなりいます。むしろ近藤さんのいう「生乾きの干物」の指摘のほうが的を射ているかもしれない。私の印象では、本名であれ匿名であれ、誤解を恐れずに言っていると、成仏してはいない。まだ干物になつてい

ない。一般に人間は年とともに世間と折り合いをつけるようになるのに、こと元全共闘にはこの「定説」が当てはまらないどころか真逆です。ちなみに問3の回答「全共闘に参加したことを誇りに思う」は25年前の56・3%が69・5%へ。問4「あの時代に戻れたらまた参加する」は25年前の55・3%が67・0%へ。問7「運動は人生を変

えたか」は25年前の69・8%が80・3%へ。さらに問45の「憲法堅持」も、25年前の51・3%が66・8%へと、むしろ老いてますます「志操堅固」になっています。また、問39「ボランティア活動に(ときどきも含めて)取り組んでいる」が25年前の43・3%から63・7%へ(厚生労働省の高齢者調査によると「なにもやっていない」は69・9%)、問55「選挙に

いつも行く」も25年前の53・8%が78・5%へ、そして問69「今後は25年前の38・8%が60・3%へと大きく増加している。運動終息後長髪を切って就職したと揶揄される全共闘世代ですが、この統計数値からも、どここい牙は抜かれず、それを密かに研いできたようです。だから、「遺言」というよりも、まだまだ「生乾き

憲法はどうすべき

改正	92人	20.6%
堅持	298人	66.8%
加憲	17人	3.8%
その他	25人	5.6%
累計	432人	96.8%

安倍政権の改憲

賛成	9人	2.0%
反対	419人	93.9%
その他	12人	2.7%
累計	440人	98.7%

の干物」であることを図らずも吐露してしまった。これはなぜかという、75問も繰り返ししつこく聞かれることで考えが整理され、自らの立ち位置をハッキリさせざるを得ないんだと思う。

近藤 そうですね。取材されることで初めて、自分の存在の意味を考え始めるということもあるのだと思います。『統・全共闘白書』でアンケートをやったという意味は

大きい。

『昔の敵の共産党は今日の友?』

前田 元全共闘が「生乾きの干物」である例証が他にもあります。25年前にはいなかった山本太郎氏と白井聡氏が「注目する政治家・言論人」の断トツのトップになっている。また「注目する政党」では立憲民主が48・9%でこれは想定

内ですが、れいわ新選組の13・7%に次いで、共産党が9・6%と3位。25年前は1・1%でした。かつて封鎖に反対する共産党の青年組織である民青の諸君と全共闘は不倶戴天の関係でした。それが半世紀を経て「今日の友」になった元全共闘もいる。これを「歴史的和解」と言っているのかは俄かに断定できませんが、事務局としては予想だにしていなかったこと

です。

近藤 あの時代、あの運動が何だったのか考えるうえで、小杉さんの著書でも扱われていますが（注3）、例えば、民青の人がどう考えていたかなどは重要な証言だと思います。同じように、当時、全共闘の「敵」だとされていた側の証言も重要で、そういったところも含んだ上で新たな言説を提示できないと、若い世代に伝わるもの

日米安保をどうする

廃棄	279人	62.6%
堅持	23人	5.2%
修正	118人	26.5%
その他	12人	2.7%
累計	432人	97.0%

注目する言論人

白井 聡	11人	2.5%
佐藤 優	10人	2.2%
内田 樹	10人	2.2%
青木 理	9人	2.0%
中島岳志	7人	1.6%
山本太郎	7人	1.6%
総計	360人	80.7%

支持政党 (複数回答)

立憲民主党	212人	47.5%
支持政党なし	64人	14.3%
社民党	50人	11.2%
れいわ新選組	23人	5.2%
共産党	16人	3.6%
自民党	12人	2.7%
自由党	5人	1.1%
維新の党	4人	0.9%
緑の党	4人	0.9%
国民民主党	2人	0.4%
生活者ネット	1人	0.2%
新社会党	1人	0.2%
NHKから国民を守る党	1人	0.2%
その他	42人	9.4%
累計	437人	98.0%

最も好きな政治家 (複数回答)

山本太郎	59人	13.2%
枝野幸男	22人	4.9%
小沢一郎	14人	3.1%
福島瑞穂	9人	2.0%
辻元清美	7人	1.6%
保坂展人	6人	1.3%
森ゆうこ	6人	1.3%
累計	483人	109.03%

最も嫌いな政治家 (複数回答)

安倍晋三	271人	60.8%
麻生太郎	54人	12.1%
菅義偉	51人	11.4%
松井一郎	11人	2.5%
橋下徹	8人	1.8%
稲田朋美	8人	1.8%
累計	596人	133.6%

最も注目する政治家 (複数回答)

山本太郎	81人	18.2%
枝野幸男	31人	7.0%
小沢一郎	28人	6.3%
小泉進次郎	20人	4.5%
安倍晋三	8人	1.8%
橋下徹	7人	1.6%
累計	336人	75.3%

女性議員比率強化策

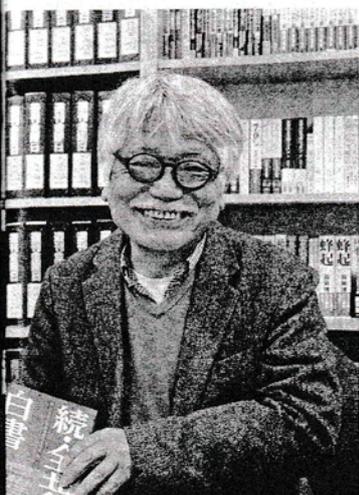
必要	349人	78.3%
不要	41人	9.2%
不明	24人	5.4%
その他	17人	3.8%
累計	431人	96.7%

東大全共闘と三島由紀夫との伝説の討論会

にはならないと思います。

前田 たしかに全共闘運動を浮き彫りにするには多面的な視点からの照射が必要でしょうね。東大安田講堂が陥落した年の5月に駒場で行なわれた伝説の討論会(注4)をテーマにした映画『三島由紀夫VS東大全共闘 50年目の真実』が

「続・全共闘白書」を手に微笑む前田和男さん(右)と近藤伸郎さん。



3月末に封切られました。『続・全共闘白書』の回答者の一人が当事者として「狂言回し」を務めています。東大全共闘を支えた一部には、政治闘争よりも文化的反乱を求めていたノンセクトラジカルたちがいたことが分かります。近藤 私の中では、権力批判が大衆解体につながり、それがエスカレートし、革命へとつながっていったんだと理解しています。東大

全共闘に関しては、それで間違いないですか？

前田 東大全共闘の「本隊」としては、そのとらえかたで間違いないでしょう。『続・全共闘白書』では問1で「運動には一般学生か活動家かどちらの立場で参加したか」を訊いた上で、問5で「革命・社会変革を信じていたか」と問うています。結果は「革命を信じていた」は活動家55・2%、一般

学生39・1%です。私の印象からすると、活動家の数字は少なすぎますが、この数字から落ちこぼれるノンセクトラジカルもいたわけで、それが三島由紀夫と「文化と革命」をめぐる伝説の大議論をしたわ



『続・全共闘白書』 450人を超える回答

叛乱時代の証言

近藤 今、「一般学生」と言えばノンボリのことを指しますが、当時は「ノンセクト」が一般学生だったんですね。その辺りのことが興味深いです。全共闘のなかで「革命」と明確に言っていた向きは一部だったとしても、多くの学生は「革命」に対してどういうスタンスだったのでしょうか。そして、彼らのメッセージは、今の世代の若者にも伝わりうる、意味のあるものなのでしょうか。

前田 そう願っています。そもそも

も若い世代に私たち全共闘世代のメッセージを伝えなければならぬと思います。本書を編んだわけですから。若い世代の近藤さんから鋭くも指摘をされたように、本書だけでは生の声のままで伝わりづらいところがあります。今後は、注目する政治家・言論人の筆頭に挙げられた山本太郎氏や白井聡氏をはじめ有名・無名を問わず本書をそれぞれの立場から読み解いてもらう試みをつづけ、全共闘世代のメッセージをより分かりやすく伝える「副読本」をつくらうと思っています。『週刊金曜日』の読者にもぜひ参加をもらいたいと思っています。

週刊金曜日 2020.5.1 (1279号)

嫌いな言論人 (複数回答)

百田尚樹	79人	17.7%
櫻井よしこ	79人	17.7%
橋下 徹	16人	3.6%
竹中平蔵	10人	2.2%
日本会議に集う人々	10人	2.2%
三浦瑠麗	8人	1.8%
田原総一郎	6人	1.3%
曾野綾子	5人	1.1%
大江健三郎	5人	1.1%
総計	410人	91.9%

好きな言論人 (複数回答)

白井 聡	19人	4.2%
青木 理	18人	4.0%
前川喜平	11人	2.5%
内田 樹	11人	2.5%
吉本隆明	11人	2.5%
姜尚中	10人	2.2%
高橋源一郎	9人	2.0%
佐高 信	7人	1.6%
金子 勝	7人	1.6%
山本義隆	6人	1.3%
望月衣塑子	6人	1.3%
辺見 庸	6人	1.3%
小出裕章	6人	1.3%
総計	537人	120.4%

定期購読紙誌 (複数回答)

朝日新聞	205人	46.0%
東京新聞	53人	11.9%
毎日新聞	47人	10.5%
日本経済新聞	37人	8.3%
週刊金曜日	26人	5.8%
読売新聞	18人	4.0%
世界	13人	2.9%
日刊ゲンダイ	11人	2.5%
情況	11人	2.5%
累計	720人	161.4%

(注1) 小杉亮子さん(日本学術振興会特別研究員)や松井隆志さん(武蔵大学社会学部教員)らがまとめた本に「運動史とは何か 社会運動史研究1」(新曜社)がある。

(注2) 『死へのイデオロギー——日本赤軍派』(岩波現代文庫)

(注3) 小杉亮子「東大闘争の語り 社会運動の予示と戦略」(新曜社)。

(注4) 三島由紀夫との討論会 1969年5月13日に東大教養学部九〇〇番教室で、約1000人の学生と2時間半にわたって行なわれた討論。

写真撮影/文聖姫・編集部。

聞き手/近藤伸郎・ジャーナリスト。

まとめ/横山茂彦・ライター。

※2月17日、「週刊金曜日」事務所で対談実施。